
釜

釜を食え

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

釜

【Nコード】

N8727L

【作者名】

釜を食え

【あらすじ】

特に意味は無い詩です。ですが、意味深な風にはなっています。

蒼が溜まり込んだ歪に。

渦巻いている千人の微笑みがあった。

彼らの生まれは人間だった。

長い年月の間に、歪の中で微笑みを絶やさぬ様に。

蒼は時折、反発をする。その時にだけ千人は微笑みを絶やし、渦

に吸い込まれていくと言う。

蒼が溜まり込んだ歪に。

漆黒が無限大なのだと噂はされている。

千人は反発の世界に塗れ、漆黒に墜落を果たした。

雷が光る時にだけ、笑うことが出来る。

千人は武器を取って、金や銀に憧れた。二千の眼差しは、蒼。

戦争したわけでは無いのだと言う。彼らは、じゃれあった。

槍が腹を突けば、銃が頭を貫く。拳が歯を砕けば、斧が脳髓を割る。

血が流れて地底へと落ちる。それがやがて、滝になった。

地底で滝は啜られる。一万の瞳が、滝を唇で触れ、舌でからめとって。

武器で流れた血が地底で滝に。一万の瞳が沈むことなく生きのびて。

武器はやがて、五千。

腸が煮えくり返る程に、釜は赤身を帯びて。

二万五千人が供養されたのだと。

葬式は金と銀の四角い部屋で行われて、涙は千万。

全て嘘だった。別々の意味で、誰もが嘘をついていた。
く、く、く。呻く。

享樂に身を任せることが正解なのだ。

金と銀の四角い部屋に覆われて

彼らは表面を撫であう。人間だったけれど、今だって同じような
モノ。

釜の汁を啜る。悪夢を見るために、今日も生きる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8727/>

釜

2010年10月19日12時37分発行